

オルタナティブ投資が必要な理由

こ

この数年の資産運用のキーワードとも言える、オルタナティブ投資。オルタナティブは、代替するという意味の言葉だ。投資以外の世界でもオルタナティブ・ミュージック、オルタナティブ医療などの形で使われている。では、資産運用の世界において、「代替」は必要なのだろうか。

資産運用の中心は株式と言える。とりわけ、米国株は長期の上昇を続けており、日本でも人気となった。個別株だけではなく、投資信託でも米国株を中心とする海外先進国の株式への資金流入が目立つ。

しかし、米国株はいまだ史上最高値の更新を続けているものの、値動きが荒くなってきた。実際にS&P500のボラティリティを示すVIX指数を見ると、2020年代は2010年代と比較して25%も平均水準が上がっている。

この株式の値動きの荒さをカバーするのが、「60/40ポートフォリオ」に代表される、債券との組み合わせだ。しかし、この手法はインフレ下では効果を発揮しにくいとされる。

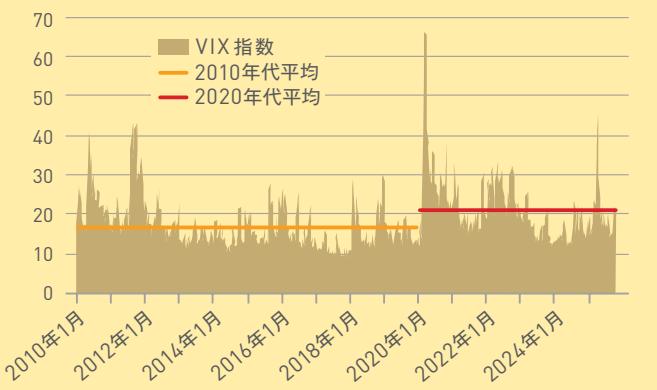
インフレ率が高いと、景気をてこれ入れするための利下げなど、緩和的な金融政策の実行は難しくなる。結果、金利の低下（＝債券価格の上昇）が、株式のパフォーマンスをカバーすることが少なくなる。高インフレが続いた1970～80年代の米国では、株式と債券の相関が高まり、分散効果は薄れたという歴史もある。

こうした背景からも、債券以外の「保険」が必要ではないだろうか。オルタナティブ投資には、不動産、ヘッジファンド、コモディティなど多様な選択肢がある。株式と債券に偏らない強固なポートフォリオを構築するため、検討を始める価値がありそうだ。

M

図表1 VIX指数の推移

(週次、2010年1月4日週～2025年10月27日週)



(出所) Bloombergのデータをもとに当社作成

図表2 米政策金利とインフレ率の推移

(月次、1990年7月～2025年9月)



※インフレ率は粘着性の高い価格指数、食料・エネルギー除く

(出所) FRED、Bloombergのデータをもとに当社作成

アモーヴァ／BS マネージャーセレクトファンド (為替ヘッジあり)／(為替ヘッジなし)

追加型投信／内外／資産複合／特殊型(絶対収益追求型)

絶対収益の獲得^{*1}を追求するマルチストラテジーファンド。
個人投資家が直接投資を行なうのが難しいオルタナティブ投資^{*2}において、
当ファンドは世界有数の投資戦略へのアクセスを可能とします。

*1 市況動向に左右されず、投資元本に対して収益を上げること。

(必ず収益を得られるという意味ではありません。)

*2 株式や債券などの伝統的資産とは値動きの傾向が異なる資産への投資や
投資手法のこと。

商品のお申込みにあたっては目論見書等を必ずご確認ください。目論見書等のご請求はお取引店までどうぞ。

